



病理組織検査について

福岡市食肉衛生検査所では、と畜した牛・豚の解体後検査の際に、現場で合否を判定できないものについて、検査室で精密検査を実施しています。病気の種類によって、様々な検査がありますが、今回は、顕微鏡を使って内臓などの組織を観察する病理組織検査についてご紹介します。

この腫れているリンパ節の中で何が起きているんだろう？



1. 採材



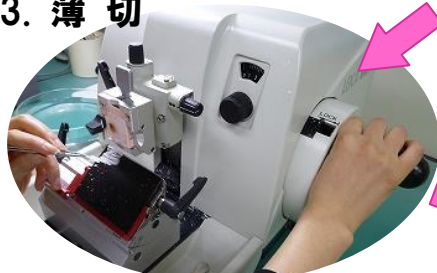
～検査の流れ～

2. 固定・包埋



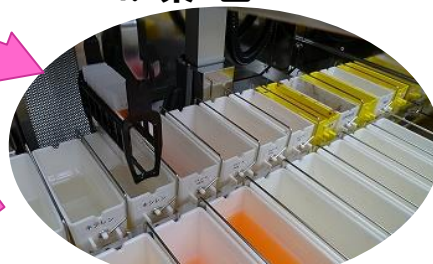
臓器、リンパ節などを採取し、観察しやすい大きさに切り出します。

3. 薄切



ホルマリン固定後にパラフィン（ろうのようなもの）に検体を埋め込みます。

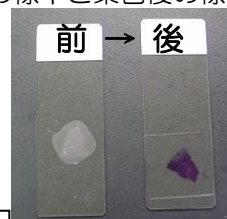
4. 染色



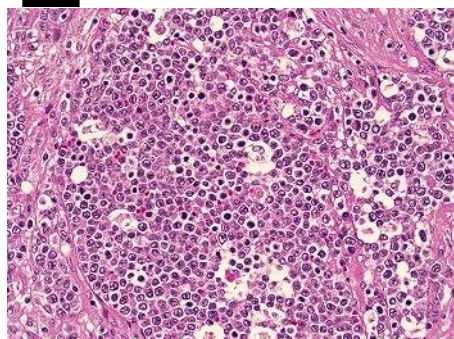
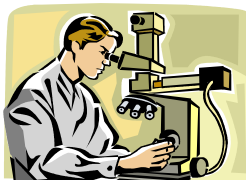
検体を薄く切り（1mm の数百分の1の厚み）プレパラートに貼り付けます。

貼り付けた組織は無色なので、観察しやすいように染色します。

染色前の標本と染色後の標本



5. 顕微鏡で観察



腫れていたリンパ節の中で腫瘍細胞が増殖していることが分かります。（リンパ腫）
このように、病理組織検査では、臓器やリンパ節の中で何が起きているかをミクロの視点で観察することができ、腫瘍の診断などに役立っています。